

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年2月14日
【四半期会計期間】	第148期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）
【会社名】	関西ペイント株式会社
【英訳名】	KANSAI PAINT CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河盛 裕三
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市神崎町33番1号（本店は左記の場所に登記しておりますが、 実際上の本社業務は本社事務所でっております。）
【電話番号】	06 - 6499 - 4861（代表）
本社事務所の所在の場所	大阪市中央区今橋2丁目6番14号
電話番号	06 - 6203 - 5531（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部経理部長 青柳 彰
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東大井5丁目24番15号
【電話番号】	03 - 3472 - 3131（代表）
【事務連絡者氏名】	東京事務所長 菅沼 寛
【縦覧に供する場所】	関西ペイント株式会社 本社事務所 （大阪市中央区今橋2丁目6番14号） 関西ペイント株式会社 東京事業所 （東京都大田区南六郷3丁目12番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第147期 第3四半期連結 累計期間	第148期 第3四半期連結 累計期間	第147期
会計期間	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成23年 4月1日 至 平成23年 12月31日	自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日
売上高(百万円)	179,470	185,474	236,984
経常利益(百万円)	19,337	14,677	23,534
四半期(当期)純利益(百万円)	10,507	10,331	12,675
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	8,323	2,294	11,970
純資産額(百万円)	184,215	183,064	187,623
総資産額(百万円)	272,505	290,477	271,244
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	39.57	38.90	47.73
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	60.2	55.9	61.6

回次	第147期 第3四半期連結 会計期間	第148期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成22年 10月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成23年 10月1日 至 平成23年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	12.00	20.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第147期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

当第3四半期連結累計期間に、セグメント情報の「その他」の区分において、FREEWORLD COATINGS LTD.の株式を公開買付けにより追加取得し、連結子会社としております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
又、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、緩やかな拡大が続きましたが、欧州債務危機の深刻化、中国、インドでの景気拡大テンポの鈍化などにより、世界的な景気の下振れが懸念される状況となりました。わが国においては、東日本大震災により落ち込んだ企業の生産活動は、第2四半期以降、緩やかに持ち直してまいりましたが、第3四半期において、タイの洪水被害の影響を受け、一時的に停滞いたしました。又、歴史的な水準の円高が続き、国内経済の回復を下押しすることが懸念される状況となりました。

当社グループの連結業績につきましては、本年度より新規連結化した南アフリカ子会社の寄与などにより、売上は増加した一方、国内外において、期間前半での震災の影響による自動車減産に加え、高水準が続く原材料価格の影響を受け収益が圧迫されました。さらに、円高による為替換算の影響を受けました。一方、国内の保有土地等売却による特別損益を計上いたしました。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は1,854億74百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益は130億10百万円（前年同期比23.4%減）、経常利益は146億77百万円（前年同期比24.1%減）、四半期純利益は103億31百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりであります。

#### 日本

自動車新車用分野では、期間はじめに震災の影響による生産台数減少を受け、売上が大きく落ち込みましたが、第2四半期以降、生産の持ち直しとともに緩やかな回復が続き、しかしながら、前半の大幅な落ち込みをカバーするにはいたりませんでした。その他の分野でも、売上は、震災の影響による落ち込みから緩やかな回復が続き、工業分野では復興需要もあり前年同期並となりました。しかしながら、建築、その他の分野では売上は減少いたしました。

このような状況のなか、引き続きコスト低減の取組みを推進いたしましたものの、売上減少による収益悪化をカバーするにはいたりませんでした。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,069億73百万円（前年同期比4.4%減）、経常利益は79億78百万円（前年同期比23.1%減）となりました。

#### インド

自動車分野では、金融引き締めの影響などにより自動車販売の伸びに鈍化が見られ、売上の伸びもこれに伴いました。建築分野では、内需拡大が続くなか、高水準が続く原材料価格の製品転嫁が進み、現地通貨ベースでの売上、利益はともに伸長いたしました。しかしながら、ルピー安により、為替換算の影響を大きく受けることとなりました。

これらの結果、当セグメントの売上高は285億94百万円（前年同期比3.9%減）、経常利益は35億13百万円（前年同期比8.6%減）となりました。

#### アジア

インドネシアでは、好調な自動車生産に支えられ、業績伸長が続き、中国、タイをはじめとするその他の国・地域では、第2四半期に、震災の影響による自動車減産に伴い売上が落ち込んだものの、第3四半期には回復へと向かいました。一方、増加基調で推移していた中国の工業分野は、第3四半期において金融引き締めの影響を受け、特に建設機械の需要が落ち込み、減速基調となりました。

これらの結果、当セグメントの売上高は279億5百万円（前年同期比7.5%減）、経常利益は30億11百万円（前年同期比32.6%減）となりました。

#### 欧州

欧州債務危機の深刻化に伴い、トルコ経済の成長に鈍化が見られたものの、堅調な水準が続き、特に工業分野の売上が伸長いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は77億34百万円（前年同期比5.7%増）、経常利益は3億84百万円（前年同期比9.4%増）となりました。

#### その他

本年4月に連結子会社化した南アフリカ共和国のFREEWORLD COATINGS LTD.の業績が第2四半期より新たに連結売上へ寄与いたしました。一方、同社の株式取得に伴い、第2四半期より、のれんの償却が発生いたしました。これらの結果、当セグメントの売上高は142億66百万円、経常損失は2億9百万円となりました。

## (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

#### 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容

当社グループは、「顧客に満足される製品及びサービスを提供することによって社会に貢献する」ことを経営の基本理念としております。即ち、当社グループのコアビジネスである塗料事業を通じて、顧客の満足を得ることが当社グループの存立基盤であり、その実現により社会に貢献し、企業価値を向上させることが、株主をはじめとする取引先、従業員、地域社会等、当社グループのステークホルダーに貢献し得るものと考えております。

従って、当社では、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、この基本理念を理解したうえで様々なステークホルダーとの信頼関係を維持し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を、継続的に確保・向上させていく者でなければならないと考えております。

逆に、上記基本理念を理解せず、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損する者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。

#### 基本方針の実現に資する取組み

当社グループは上記基本理念のもと、創業以来、一貫して塗料についての製品開発を行い事業を営んでまいりました。その結果、当社グループは、自動車をはじめとする各種工業製品、建築、建造物、船舶等幅広い分野のお客様との良好な関係を構築するに至っており、このようなお客様との関係は、当社グループにとって最も重要な財産の一つであります。

基本理念の実現に向け当期は、以下の重点方針を掲げて事業活動を展開してまいりました。

##### 競争力の強化

技術開発力を強化し、市場のニーズに合致した世界的に競争力のある魅力的な商品を開発し、市場に投入する。又、業務の効率化を推進し、トータルコスト削減による収益力の強化を図る。

##### グループ経営の強化

当社グループ全体の事業構造を見直し、経営資源の集中と塗料事業及び周辺分野への重点投資を行い、グループとしての価値観・戦略を共有し、シナジー効果を極大化する。

##### グローバル化の推進

国際市場における競争優位性を確保するため、日本、欧米並びに成長が期待されるアジア及び新興国において関係会社・提携先との連携を一層強化し、海外事業の連結業績への貢献度を一段と高める。

##### 企業の社会的責任の推進

資源を保護し、環境を守り、豊かな社会を建設・持続させるという塗料本来の使命を十分に自覚し、レスポンシブル・ケア宣言に基づいた、環境・安全・健康問題に対してより総合的な見地から地球環境保全の取組みを継続する。又、コンプライアンスの徹底、社会的貢献活動及び的確な情報開示を推進し、企業としての社会的責任を誠実に果たす。

又、今後とも、グループ各社の経営資源を最大限に活用し、収益を重視した事業展開を進めるとともに、業務改革を強力に推進し、経営基盤の拡大強化に努め、継続的な企業価値向上と株主共同の利益の維持、拡大に努めてまいります。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成19年6月28日開催の第143回定時株主総会において、株主の皆様のご承認をいただき、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株式の買付行為、又は特定株主グループの議決権割合が結果として20%以上となる当社株式の買付行為に関する対応方針として、「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針」いわゆる買収防衛策を導入し、平成21年6月26日開催の第145回定時株主総会及び平成23年6月29日開催の第147回定時株主総会において、株主の皆様のご承認をいただき、これを継続しております。

本対応方針は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させることを目的として、大規模買付者に対して、事前に必要かつ十分な情報の提供を求め、株主の皆様が適切に判断するために必要な情報や時間、あるいは当社取締役会による代替案の提示を受ける機会を確保したうえで、大規模買付行為がなされた場合の対応方針として、当社取締役会から独立した独立委員会の勧告を最大限尊重するかたちで、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しないなど、当該買付行為が当社企業価値及び株主共同の利益を著しく損なう場合には、対抗措置として新株予約権の無償割当てを行うことを内容としています。

なお、本対応方針の詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.kansai.co.jp/finance/index.html>)に掲載の「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の継続について」をご参照ください。

上記取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

の取組みは、まさに当社の基本方針を具体化したものであり、当社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の株主共同の利益に資するものであります。

又、の取組みは、

株主の皆様が適切に判断するために必要な情報や時間、代替案の提示を受ける機会を確保すること等を可能とすることによって、当社企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されていること。

株主総会での導入・廃止、2年間という有効期間の設定など、その導入・消長の場面において、株主の皆様のご意向が反映される仕組みとなっていること。

独立委員会は3名以上の社外有識者により構成され、独立した第三者の助言を受けることができるとされていること、当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かを決定するにあたって、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとされていることなど、独立性の高い独立委員会により、当社取締役会が恣意的に対抗措置の発動を行うことのないよう厳しく監視することによって、当社企業価値及び株主共同の利益に資する範囲で本対応方針の運用が行われる仕組みが確保されていること。

大規模買付行為に対する対抗措置は、あらかじめ定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設計されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みが確保されていること。

買収と無関係の株主に不測の損害を与えるものではないこと。

取締役の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策ではないこと。

などから、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則及び必要性・相当性確保の原則を充足しており、高度の合理性を有しております。よって、当社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿い、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであります。

### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の総額は、38億53百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### (4) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、FREEWORLD COATINGS LTD.の株式を公開買付けにより追加取得し、連結子会社といたしました。これに伴い、セグメント情報の「その他」の区分における当社グループの従業員数は、2,405名増加しております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	793,496,000
計	793,496,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	272,623,270	272,623,270	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数1,000株
計	272,623,270	272,623,270	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	-	272,623,270	-	25,658	-	27,154

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,231,000	-	単元株式数1,000株
	(相互保有株式) 普通株式 1,714,000	-	同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 263,101,000	263,101	同上
単元未満株式	普通株式 1,577,270	-	-
発行済株式総数	272,623,270	-	単元株式数1,000株
総株主の議決権	-	263,101	-

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 関西ペイント株式会社	兵庫県尼崎市神崎町33番1号	6,231,000	-	6,231,000	2.28
(相互保有株式) 株式会社扇商會	大阪市北区西天満3丁目13番7号	1,170,000	-	1,170,000	0.42
株式会社エル・ミズホ	大阪市北区西天満6丁目1番12号	364,000	-	364,000	0.13
株式会社アビィング	岡山市北区上中野1丁目16番2号	120,000	-	120,000	0.04
株式会社フレックス	大阪市淀川区加島1丁目37番56号	30,000	-	30,000	0.01
中央ペイント株式会社	大阪市淀川区三津屋中2丁目1番25号	30,000	-	30,000	0.01
計	-	7,945,000	-	7,945,000	2.91

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	41,491	27,499
受取手形及び売掛金	67,999	83,155
商品及び製品	14,411	17,759
仕掛品	2,932	3,290
原材料及び貯蔵品	8,091	10,175
その他	7,446	10,318
貸倒引当金	1,623	2,007
流動資産合計	140,749	150,192
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	56,632	62,079
<b>無形固定資産</b>		
のれん	151	11,943
その他	2,438	9,930
無形固定資産合計	2,590	21,873
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	60,071	44,888
その他	11,460	11,629
貸倒引当金	260	186
投資その他の資産合計	71,271	56,330
固定資産合計	130,494	140,284
資産合計	271,244	290,477

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	47,635	57,419
短期借入金	842	6,617
1年内返済予定の長期借入金	432	1,260
未払法人税等	3,030	4,077
賞与引当金	3,508	2,414
その他	10,472	13,698
流動負債合計	65,921	85,488
固定負債		
長期借入金	372	5,509
退職給付引当金	6,159	6,602
その他	11,167	9,811
固定負債合計	17,698	21,924
負債合計	83,620	107,412
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,658	25,658
資本剰余金	27,154	27,154
利益剰余金	116,913	124,458
自己株式	5,702	5,707
株主資本合計	164,023	171,564
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,276	9,156
繰延ヘッジ損益	388	-
為替換算調整勘定	9,493	18,476
その他の包括利益累計額合計	3,171	9,320
少数株主持分	20,428	20,820
純資産合計	187,623	183,064
負債純資産合計	271,244	290,477

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	179,470	185,474
売上原価	126,930	131,767
売上総利益	52,540	53,707
販売費及び一般管理費	35,555	40,697
営業利益	16,985	13,010
営業外収益		
受取利息	127	186
受取配当金	818	830
持分法による投資利益	1,318	885
雑収入	896	894
営業外収益合計	3,161	2,796
営業外費用		
支払利息	80	470
たな卸資産廃棄損	165	123
為替差損	289	239
雑支出	275	295
営業外費用合計	810	1,129
経常利益	19,337	14,677
特別利益		
段階取得に係る差益	-	338
貸倒引当金戻入額	36	-
固定資産売却益	18	6,861
投資有価証券売却益	28	14
負ののれん発生益	188	11
特別利益合計	271	7,225
特別損失		
固定資産売却損	-	1,339
固定資産除却損	190	156
関係会社株式売却損	209	6
投資有価証券評価損	36	589
災害による損失	-	151
早期退職関連費用	-	667
特別損失合計	436	2,909
税金等調整前四半期純利益	19,172	18,993
法人税等	6,049	6,673
少数株主損益調整前四半期純利益	13,123	12,319
少数株主利益	2,615	1,987
四半期純利益	10,507	10,331

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	13,123	12,319
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,455	3,426
繰延ヘッジ損益	-	388
為替換算調整勘定	3,186	10,805
持分法適用会社に対する持分相当額	157	6
その他の包括利益合計	4,799	14,614
四半期包括利益	8,323	2,294
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,695	2,160
少数株主に係る四半期包括利益	1,627	134

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年12月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更 持分法適用の関連会社でありましたFREEWORLD COATINGS LTD.は、第1四半期連結会計期間中に公開買付けにより株式を追加取得し、連結子会社としております。	

【四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年12月31日)	
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年12月31日)	
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
	1. 四半期連結会計期間末日満期手形(期日現金を含む)の処理 四半期連結会計期間末日満期手形(期日現金を含む)は、手形交換日をもって決済処理しております。従って、当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、当第3四半期連結会計期間末日満期手形(期日現金を含む)が以下の科目に含まれております。
	受取手形 1,564百万円 売掛金 2,602百万円 支払手形 767百万円 買掛金 3,633百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費(百万円)	5,229	5,043
のれんの償却額(百万円)	134	722
負ののれんの償却額(百万円)	78	29

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,332	5.00	平成22年 3月31日	平成22年 6月30日	利益剰余金
平成22年11月10日 取締役会	普通株式	1,332	5.00	平成22年 9月30日	平成22年 12月3日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,331	5.00	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日	利益剰余金
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	1,331	5.00	平成23年 9月30日	平成23年 12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	日本	インド	アジア	欧州	計				
売上高(百万円)									
(1) 外部顧客への売上高	111,852	29,762	30,154	7,315	179,085	385	179,470	-	179,470
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,802	11	185	19	10,018	-	10,018	10,018	-
計	121,655	29,774	30,340	7,334	189,104	385	189,489	10,018	179,470
セグメント利益(百万円)	10,376	3,844	4,470	351	19,042	293	19,336	0	19,337

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、米国・南アフリカ等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
4. 日本、インド以外の各セグメントに属する主な国又は地域  
 アジア.....タイ、中国、マレーシア等  
 欧州.....トルコ、英国等

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	日本	インド	アジア	欧州	計				
売上高(百万円)									
(1) 外部顧客への売上高	106,973	28,594	27,905	7,734	171,208	14,266	185,474	-	185,474
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,393	11	218	-	9,623	23	9,646	9,646	-
計	116,367	28,605	28,124	7,734	180,832	14,289	195,121	9,646	185,474
セグメント利益(百万円)	7,978	3,513	3,011	384	14,887	209	14,677	0	14,677

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、米国・南アフリカ等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
4. 日本、インド以外の各セグメントに属する主な国又は地域  
 アジア.....タイ、中国、マレーシア等  
 欧州.....トルコ、英国等

( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	39.57円	38.90円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	10,507	10,331
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	10,507	10,331
普通株式の期中平均株式数(千株)	265,560	265,586

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間 (自平成23年10月1日至平成23年12月31日)	
当社は、平成23年12月27日に開催した取締役会の決議に基づき、以下のとおり普通社債を発行いたしました。	
第9回無担保社債(社債間限定同順位特約付)	
(1) 発行総額	15,000百万円
(2) 発行年月日	平成24年1月31日
(3) 発行価額	額面100円につき金100円
(4) 利率	年0.564%
(5) 償還期限及び償還方法	平成29年1月31日、満期一括償還
(6) 資金使途	運転資金に充当

2【その他】

平成23年11月10日開催の取締役会において、定款の規定に基づき平成23年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当金を支払う旨の決議を行いました。

中間配当金総額	1株当たり配当額	支払請求権の効力発生日 及び支払開始日
1,331百万円	5円00銭	平成23年12月2日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月10日

関西ペイント株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山中 俊廣 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 新田 東平 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒川 智哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている関西ペイント株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、関西ペイント株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。